

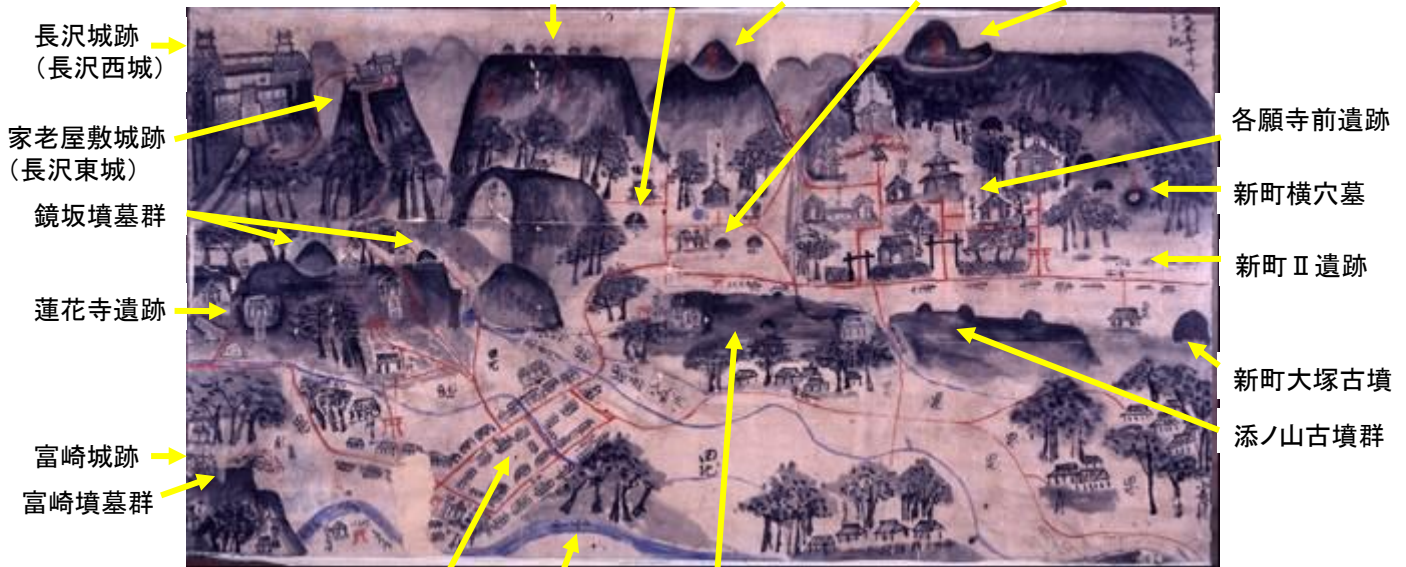
こえ ず 古絵図に描かれたふるさとの遺跡

◆はじめに

富山市婦中町古里地区は、富山市南西部の山田川左岸扇状地から羽根丘陵に立地し、古くから婦負郡の中心として栄え、数多くの遺跡が集中する文化財の宝庫となっています。

この地域を舞台にした歴史が描かれた古絵図に『長沢絵図』があり、ここには様々な時代の文化財が登場します。そして、近年行われた発掘調査では、絵図に描かれた場所に、実際に多くの遺跡が存在することが分かってきました。

★絵図と遺跡の位置を照合すると… 五ツ塚古墳群 六治古塚墳墓 勅使塚古墳 向野塚墳墓 王塚古墳



◆『長沢絵図』とは

鍛冶町遺跡 山田川 千坊山遺跡
((伝)行人塚、(伝)天児六郎屋敷跡)

古里地区の長沢にある若林家に伝わる古絵図で、江戸時代の文化年間(19 世紀初頭)に若林家第 39 代の市兵衛が描いたとされています。古里地区の丘陵を東の平野から鳥瞰した図をベースに、市兵衛が丹念に調査した天正年間 (16 世紀後半) 以前の歴史が、伝承を織り交ぜながら想像力豊かに描かれています。

◆絵図に登場する遺跡

・墳墓・古墳(弥生時代～古墳時代)

※は史跡王塚・千坊山遺跡群 (別紙ガイドマップ参照)

絵図最上段の「一品親王塚」「勅使塚」「五ツツブラ」と朱書きで記された場所には、古墳時代前期 (約 1,700 年前) の前方後方墳の王塚古墳と勅使塚古墳、円墳の五ツ塚古墳群があります。全長 58m の王塚古墳には、各願寺 (701 年創建) の創始者と伝わる仏性聖人 (天武天皇第 7 皇子、一品親王) が葬られたという伝承があります。絵図には前方部や周溝も表現されており、現地で注意深く観察されたことが分かります。全長 66m の勅使塚古墳には、建武年間 (14 世紀前半) に各願寺に遣わされた勅使が殺害されて葬られたという伝承があります。絵図の表記から、これらの古墳の呼称は少なくとも江戸時代までさかのぼり、大きく描かれた墳丘から当時特別な存在として考えられていたことが推測されます。

そのほか「塚・ツカ・御塚」と表記された部分には、たくさんの墳墓や古墳が墳丘の特徴や立地をとらえながら描かれており、今日でもその所在が確認できるものがあります。

六治古塚墳墓・鏡坂墳墓群・富崎墳墓群は、弥生時代終末期 (約 1,800 年前) の四隅突出型墳丘墓という山陰系の墳墓で、当時日本海を通じた交流があったことを物語るものです。墳丘の規模は、大きなもので 24.5m あります。そのほか弥生時代終末期 (約 1,750 年前) の前方後方形墳丘墓の向野塚墳墓、弥生時代から古墳時代の方墳とみられる添ノ山古墳群や新町大塚古墳、横穴墓の新町横穴墓なども絵図にその姿が見られます。



王塚古墳



六治古塚墳墓

・城館・寺院・塚状遺構

北叡山と呼ばれ栄えた各願寺は、多くのお堂をもつ大規模な寺院として描かれています。ここに所在する各願寺前遺跡では、奈良・平安時代（約 1,250～1,200 年前）の掘立柱建物 3 棟と鎌倉・室町時代（約 700～450 年前）の掘立柱建物 6 棟などが確認され、室町時代（約 600 年前）の備蓄銭約 2,400 枚も出土しました。備蓄銭には、「蓄財説」のほか、神仏に捧げた「埋納銭説」もあり、各願寺との関連が推測されます。また、鎌倉・室町時代（約 700～600 年前）の掘立柱建物 1 棟などが確認された蓮花寺遺跡がある場所には、「蓮花寺」の表記があります。2 遺跡ともに寺院跡であることを裏付ける遺構・遺物は、今のところ見つかっていませんが、今後の調査で見つかる可能性もあります。

千坊山遺跡では、「天児六郎元城カコイ之内」（※天児六郎は古里地区に伝わる開祖伝説の登場人物）と記された箇所から、鎌倉・室町時代（約 800～600 年前）の城館跡（あるいは寺院跡）が見つかりました。東西 35m 以上×南北 43m 以上の平坦面を囲うように、堀と土塁を二重にめぐらせており、中世土師器などが出土しました。また「行人ツカ」（※行人とは仏教の修行をしている者）と記された箇所からは、鎌倉時代（約 700 年前）の塚状遺構が見つかりました。四角い盛土に二重の周溝をめぐらせる珍しいもので、規模は外側の溝の両端で 25～26m を測ります。周溝からは珠洲焼や中世土師器が出土しました。盛土の内部には施設が確認されておらず、性格は不明です。

中世の山城である長沢城・家老屋敷城・富崎城は、石垣がそびえたつ城として描かれています。実際には石垣が築かれることはなく、曲輪を土塁や堀で防御する構造でした。

・集落

絵図には複数の集落が描かれています。発掘調査ではそれらの前身と思われる古代から中世の集落遺跡（新町Ⅱ遺跡ほか）も確認されています。そのうち長沢にある鍛冶町遺跡は、絵図にはその表記は見られないものの、古くから鍛冶屋があった土地と伝えられており、調査では平安時代（約 1,100 年前）の鍛冶関連の遺構・遺物などが見つかりました。

◆まとめ

『長沢絵図』を現在の調査成果と比較してみると、そこに描かれた遺跡の立地や特徴が、筆者の綿密な調査のもとで描かれたことが分かります。今日では確認できない墳墓も記されており、失われた歴史を復元する手がかりを与えてくれる文化財の貴重な調査記録といえます。また、文化財が当時の人々の目にどのように映っていたかを知る上でも大変興味深い史料です。絵図に描かれた遺跡の多くは、後の時代にも地域で親しまれ、大切に保護されてきたことがうかがえます。

参考文献 高瀬保「長沢諸事集覧之図について」『古絵図は語る－立山・イメージとそのカタチ』立山博物館 1993 年

藤田富士夫「古墳や塚が描かれた「長沢諸事集覧之図」」『婦中町史資料編』婦中町 1997 年